

平成24年度全国環境研協議会

騒音振動担当者会議の概要

奈良県保健環境研究センター

全国環境研協議会企画部の平成24年度騒音振動担当者会議は、千葉県環境研究センターが事務局となり、平成24年9月4日に千葉県庁多目的ホール(千葉県千葉市)で開催された(参加者47名)。

この会議は、全国の騒音振動に係る行政機関および調査研究機関担当者の情報交換や交流の場として重要な役割を果たしている。また、環境省との情報交換の場としても機能している。会議の概要は次のとおりで、特別講演2題、一般講演3題の後、情報交換・協議が行われた。

○特別講演 1

「騒音振動行政の現状と課題」

- ・航空機騒音に係る環境基準についての告示の一部改正の説明があった。評価指標がLdenに変更され、新たな基準値が示された。
- ・現在の騒音規制対象以外のボイラー、冷凍機および冷却塔等の騒音対策推進のため騒音ラベリング制度などの導入が検討されている。
- ・振動防止行政の課題として都市部における建設作業への苦情割合が大きいこと、規制対象外の工場または建設作業への苦情割合が多いことなどの説明があった。
- ・風力発電施設の騒音・低周波音に関する予測・評価の統一的な手法を確立させるため、取りまとめが進められている。

○特別講演 2

「自動車騒音の常時監視について」

- ・面的評価の実施、公表および活用状況などの説明があった。

○一般講演 1

「建設作業振動の現状とその動向 その1 建設作業振動の原因と今後の課題について」

- ・平成10年以降建設作業振動に対する苦情は増加傾向にあり、各種要因の関連性が検討された。ブレーカ等を使用する非木造建築物の解体による影響が大きいという説明であった。

○一般講演 2

「飛行場周辺における航空機騒音影響範囲の把握手法について」

- ・従来の評価指標であるW値とLdenの関係式が示された。その差は15程度であった。また、航空機の位置情報と観測地点の関係からLAEの予測式が作成されその有効性が示された。

○一般講演 3

「千葉県内市町村からの技術相談から見られる苦情傾向」

- ・千葉県では市町村に対して騒音・振動測定機器の貸出しと測定技術相談を実施している。その中で低周波音に関する相談の割合が多い。

○情報交換・協議 1

「各機関での自動車騒音常時監視(面的評価)への対応について」

- ・アンケート調査をもとに、情報交換・質疑応答が行われた。
- ・常時監視業務については、測定または評価を委託する機関の割合が多かった。
- ・評価対象区間数および年間測定地点数の比較的少ない機関が多かったが、かなりの数を対象としている機関もあった。
- ・交通量調査を全地点実施する予定の機関が多

かった。

- ・測定時間と除外音処理に関しては、10分間測定して除外音を10分間単位で棄却処理する機関が半分以上であった。
- ・結果の施策への活用方法としては道路管理者等への情報提供およびホームページ・環境白書等による公表が多かった。
- ・面的評価支援システムの複雑さを指摘する意見が出ていた。

○情報交換・協議 2

「騒音小委員会としての共同研究者の提案」

- ・騒音小委員会は全国環境研協議会企画部常任幹事傘下の組織で、平成21年度から24年度にかけて環境騒音の影響とその評価に関する研究を実施し25年度に結果を公表する予定である。

○その他

- ・次回は熊本県において開催される。

会 議 次 第

1. 開催県あいさつ

千葉県環境研究センター長 矢沢 裕

2. 特別講演

①騒音振動行政の現状と課題

環境省水・大気環境局大気生活環境室

桑原 厚

②自動車騒音の常時監視について

環境省水・大気環境局自動車環境対策課

清水 尚志

3. 一般講演

①建設作業振動の現状とその動向 その1 建設作業振動の原因と今後の課題について

東京都環境科学研究所 門屋 真希子

②飛行場周辺における航空機騒音影響範囲の把握手法について

宮城県保健環境センター 菊地 英男

③千葉県内市町村からの技術相談から見られる苦情傾向

千葉県環境研究センター 杉尾 明紀

4. 情報交換・協議

①各機関での自動車騒音常時監視(面的評価)への対応について

千葉県環境研究センター 山本 真理

②騒音小委員会としての共同研究者の提案

東京都環境科学研究所 門屋 真希子

5. 次回開催県あいさつ

熊本県保健環境科学研究所 菊住 彰一